甲状腺，下垂体には異常を認めなかった．また膵ラ氏島も十分保持され，インスリノーマや過形成は認められなかった．本例は，臨床経過，剖検所見より Waterhouse-Friedrichsen 症候群（WFS）と考えられた．WFS の詳細なホルモンの成績は，経過が急激であることより殆んど報告なく，また内分泌器官の病理所見の報告も散見しない．この点で本例は興味深いと思われる．

4. フレーリッヒ症候群と思われる 1 例

高田 俊範・佐藤 幸示（県立ガンセンター）
筒井 一哉（新潟病院内科）
小松原秀一（同 泌尿器科）

症例は15才10ケ月男子．中学校入学時より肥満出現．外性器発育不全にて泌尿器科受診．同科より当科紹介受診す．入院時身長 164cm，体重 79kg，腋毛，恥毛なく，外性器に二次発達を認めない．LHRH 100μg に対し初回は LH，FSH とも無反応．しかし 7 日間連続負荷後に反応性の回復をみた．TRH・アルギニンに対して PRL，TSH は低反応，hGH は境界領域．テストステロン 0.3 ng/ml 以下．副腎・甲状腺系には異常なし．また尿崩症の所見もなし．75g OGTT では境界型．形態学的には頭部単純・メトリザマイド CT とも器質的変化を思わせる所見なく，眼科的にも眼底・乳頭とも正常．脳波正常．以上より視床下部の機能的障害による二次性低ゴナドトロピン症，即ち広義の Frölich 症候群と診断された．TRH，アルギニンに対する低反応及び 75g OGTT での耐糖能低下は肥満によると思われる．LH，FSH の内因性分泌を期待し，現在 LHRH 製剤投与中．

5. 低ナトリウム血症と糖尿病を合併した中枢性尿崩症の 1 例

鴨井 久司・金子 吉一
金子 兼三・荒井 奥弘（長岡赤十字病院）

尿崩症（DI）と糖尿病（DM）を伴う症例は少なく，本邦での報告は僅か18例にすぎない．今回，低 Na 血症と DM を伴った DI の興味ある1症例を報告する．症例：36歳男．口渇，多飲多尿，全身倦怠感．25歳―アルコール（AH）性急性膵炎．腹膜炎で入院．この頃より腹部痛に毎日 240～300mg の pentazocine（PZ）を常用．33歳―膵石灰化（＋）膵摘出．59年10月，ショック状態で入院．身長 176cm，体重 66kg，血糖 400mg/dl，血清 Na 125mEq/L，K 4.3mEq/L，Posm 270～311mOsm/kg．一日尿量 7～11L，飲水量 7～11L，Uosm 100～450mOsm/kg．下垂体前葉機能正常．脱水前の Posm 270，Uosm 65mOsm/kg．3%体重減少後の Posm 277，Uosm 50mOsm/kg で U/P 比は 0.3．PAVP は前 1.0，後 0.9pg/ml．DDAVP で反応（＋）．5%食塩水負荷で Posm は 302～342mOsm/kg，PAVP は 0.2～1.0pg/ml まで上昇，反応（－）．平均血圧30%低下時の PAVP は 0.25pg/ml 反応（－）．水負荷後口渇感は Posm 260mOsm/kg にて消失．結論：5%高張食塩水負荷試験は DM を合併した時の DI の鑑別診断に有効であり，AH と PZ の長期大量摂取が両者の誘因と思われる．

6. 薬剤を契機に amenornhea, galactorrhea を示した Polycystic ovary syndrome

笠原 紳
他内分泌班（新潟大学第一内科）

症例は20才の女性で食欲不振等の症状があり昭和59年9月より5週間メトクロプラミドを服用した．理学的所見では乳房に圧痛，乳汁分泌が認められ，下肢に多毛が認められた．一般検査成績では異常なく，頭部腹部の CT スキャン等でも異常は認められなかった．内分泌学的検査では高テストステロン血症を認め，デキサメサゾン抑制試験で副腎卵巣両者由来の結果であった．また LH/FSH 比の高値，TRH テストで PRL の過剰反応，LH-RH テストで LH の過剰反応及び FSH の比較的低反応を認め，PCO 症候群と診断した．その他 DHEA-sulfate，17kS も高値であり，乳汁分泌が持続している事は，PCO で説明可能か否か現在検索中である．

7. 甲状腺癌を合併した Werner 症候群の 1 例

金子 兼三・鴨井 久司（長岡赤十字病院内科）
岡 吉郎（同 皮膚科）
柳 京三（同 整形外科）
飯沼 泰史（同 外 科）

症例は34才，男，会社員．伯父，伯母に DM 3 名認めるも，症例と同様の身体所見を示す者なし．身体所見では①生来小柄で，pubertal spurt を欠き最終身長 158 cm（身体バランス正常），②外性器の発育不良（Tanner Ⅱ度），性機能低下（＋），③12才頃より白髪増強，皮膚：萎縮，硬化，色素沈着（＋），④老人様，鳥様顔貌，⑤ハイピッチな音声，⑥3年前より視力低下あり，両眼白内障，⑦12才頃より両母指の外反増強．x-p 上骨萎縮を認め，右肘石灰沈着性関節周囲炎の手術の既往あり，